

にしとみおか・むこうばたいせき

西富岡・向畑遺跡名

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中・近世



作成日:20100405

概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmわたって広がる遺物散布地として知られています。現在行っている発掘調査は、遺跡の中でも緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として行っており、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が見つかります。

中世の遺構は、竪穴状遺構や掘立柱建物跡、地下式坑などがみつかります。5区では主室の深さが6mにも及ぶ大型の地下式坑が見つかり、地下ム口であった可能性が考えられます。

古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、竪穴式住居と掘立柱建物跡、円形土坑などがみつかります。11区H3号竪穴住居跡のカマドでは、カマド使用時に出る煙を住居外に排出するための煙道に、土師器の甕の底を打ち欠き、筒状に9個体つなげトンネル状に作られていました。

縄文時代の遺構は、敷石住居址や竪穴式住居址・水場遺



▲11区 H3号竪穴住居カマド煙道



構・埋甕・土坑・集石・配石が見つかっています。主に縄文時代後期の遺構が中心です。1区谷底の水場遺構で見つかった土坑内からは、完全な形を保った漆塗りの土器が見つかりました。関東ではあまり例がありません。おそらくは祭祀的か呪術的な意味あいを持った土器であったと考えられます。

旧石器時代では、5区や9区で石器が見つかっています。9区では相模野台地のB1層下部～L2層に相当すると思われる土層から凝灰岩、黒曜石、ガラス質黒色安山岩などを主体とした石器群やB2層からは礫群や台石なども検出されています。

▲1区 土坑出土の漆塗り土器(縄文)



▲ 1区 漆塗り土器アップ



▲ 9区 L2層出土石器群